

# グループホームさくらの家

## 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念を基に、内外ともに縁を大事にし、地域(ご近所さんや商店etc)との自然な交流を心がけている。	○
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	採用時はもちろん、各所に明示し、会議等での再確認や管理者等による、日々のケアの方向性と、スタッフの理念の実践etcをチェックしている。実習受け入れ等により、GH外へも発信を行っている。	○
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族はもちろん、地域の公民館等の公共施設職員さんへの説明や交流、中学校の職場体験学習やボランティアなどを意欲的に受け入れるようにしている。認知症介護実践者講習の実習や開設者講習等も意欲的に受け入れる事もの取り組みと思い、おこなっている。	
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近所はもちろん、GH前を通る方々にも挨拶や声を掛け、休んでもらうように勧めたり、玄関前の花壇の整備等にも力を入れ、通る方々に立ち止まり楽しんでもらえるように、心掛けている。地域の人と利用者との話のキッカケとしても有効だと考え整備している。	昨年ある公募の花壇の賞(優良賞)をいただきました。(応募は外部の方)
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	以前、老人会のグランドゴルフのサークルに利用者が参加していたり、状況に応じて極力接点をもてるように心掛けている。	自然な流れの中での地域との交流を心掛け、今後もそういった機会を出来る限り増やして行きたいとおもっている。

## グループホームさくらの家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の方々だけでなく、より多くの方々との接点を増やす事を心掛け、実習や見学等により、高齢者の住みよい環境作りに努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	三度目の外部評価でもあり、理解と浸透は出来ている。毎年評価後より、助言等を参考にシステム等も含めた改善に取り組んでいる。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	国の打ち出している「運営推進会議」の形にはまだたどり着けていないようで、現在取り組み中	○	出来る限り自然な良い形の運営推進会議を目指し、今後も取り組んでいきたいと思っている。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	度重なる法改正により、解釈に悩む事もあり、市役所や区役所の担当の方々にお会いする機会も増えた。	○	そのおかげで尋ね易くなって結果的には、よかったと思うし、今後も縁を大事に、向上に努めたいとおもっている
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	GH協議会や市町村の主催する研修会に参加し得た知識を、GH内(家族等も含む)への説明等により、周知を心掛けている。		現在、利用者内に制度利用の方も居り、その方々にも必要に応じ、制度の説明と利用を提案していく。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月例のミーティングや会議に添い検討委員会を開催し、日々のケアの中に問題は無いかな等を検討し、スタッフへの再確認の機会としている。		防止検討委員会以外の日々のケアにおいても、管理者の目や互いでの確認と検討を行うようにしている。

## グループホームさくらの家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	物では無く、人の移住の契約なので、本人と家族に何度も細かな確認を行い、その後も安定へ向けての協力をおこなっている。	○	
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	GH内外の相談窓口の明記はもちろん、利用者自身が、いつでもどこでも、話しやすい雰囲気と環境作りに努めている。	○	ボランティアや現在同グループ内の別事業所に転属になっているスタッフ(以前GH内勤務で知っている)も寄り、話せる方向性の多様化と維持に努めている。
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	各家族に対し、毎月の写真付きGH便りの発行と、平常時最低週1回以上の報告等、来苑時にもコミュニケーションを取り、関係の維持と情報交換の場として大事にしている。	○	家族の皆さん同士の交流の場として、大きな行事と連動して、年に2回以上の家族会を行っている。
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来苑時には必ず家族とコミュニケーションを取り、家族からスタッフへ話しやすい関係や雰囲気作りと維持を心掛けている。	○	その他、玄関に保険課等の窓口の連絡先も掲示している
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議やミーティングは勿論、普段から意見の吸い上げや、意見を出しやすい雰囲気作りに心掛けている。	○	実際にケアに関わるスタッフのやる気を維持すると共に、向上心の維持にも心掛け、管理側から声を掛けている。
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	「自分の家族のケア」の理念を基に、どこよりも家族的、厚い介護を目指し、人件費に多く割り当てている。	○	当苑の開設起源の精神(理念)にのっとり、今後も手厚い介護の質に向けて努力していく。
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ここ数年、在宅支援の為の事業所開設(約2年前)以外に大きな変化は無く、安定している。	○	事業所開設後移動したスタッフも、来苑し、大事な人間関係を維持するように働きかけている。

## グループホームさくらの家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。</p>	<p>常識と捉えている。それに加え、利用者も新規採用者にとっても良い空間となりうるか等も考え深く話をして何事も慎重に決定することにしてている。この世界、管理側だけでは利用者への毎日のケアは不可能である事を踏まえ、スタッフを含めた社会全体への貢献と機会を常に考え、事業の運営に携わっている。</p>	○	<p>実習の受け入れも、その一環と捉えている。但し、利用者の幸せと安定した生活は何よりも優先している。</p>
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。</p>	<p>GHという事業所(職場)は「利用者の安定した生活」の為に発生した職場である事を忘れず、日々のケアに生かされるように、その都度GH内研修等により、確認する機会を設けている。</p>	○	<p>管理者による日々のチェックや、問題提議等を行っている。</p>
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>スタッフ個人に応じた計画と方向性を見出し、それに添って研修への参加を促したり、コーチングとティーティングを行っている。スタッフの休憩室に参考になる書籍等も自由に見れるように設置している。</p>	○	<p>コミュニケーションを多く取り、尋ねやすい環境作りと自らの行動による見本と各スタッフの自己確認のキッカケ作りをしながら、スタッフへの客観的な視点での日頃の観察と助言を行う。</p>
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>実習や、研修等のキッカケを基に、それらの縁を有効に活用維持し、互いの向上の糧とする。</p>	○	<p>その輪をさらに広げていくように努める。</p>
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>表情や言動に気をつけ、楽しく過ごせる環境作りに心掛けている。年に数回の食事会や、普段の職場の環境も含めて気にとめている。</p>	○	<p>今後も事業所スタッフ全体で取り組み、皆が楽しく過ごせる(働ける)雰囲気的空間作りに取り組んでいく</p>

## グループホームさくらの家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	現状に満足するのではなく、知識も高齢者の心理世界等も、自分の知る範囲以上に、先があることにスタッフ自らが、気がつく機会を多く作るようにしている。	○	スタッフが、より広い視野を持つ為のキッカケ作りを増やす。
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	個人の尊重と傾聴の基本を基に、相談者の相談しやすい雰囲気作りを含めて準備し、受け止めるようにしている。		
26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	初期は勿論、入居期間中も常識的に家族や本人と接点を持ち、話す機会を作っている。		
27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居を前提としない相談に関しても、出来る限りの最善の対応に努めている。		空室時以外でも、電話等による相談に親切なスタンスで応じ、入居先を急ぐ方には、その方の求めに応じた他の事業所も含めた紹介等の支援をしている。
28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前の準備段階で、予定者自身や、家族との話の機会を多く持ち、現在の入居者と新規の方の双方の気持ちを体験利用により確認の後、入居をして頂いている。人と人ということを大事に考え慎重に決定している。		入居の前後は特に家族や本人と密に情報交換し、より自然に馴染みやすい環境作りに努めている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	スタッフに対し、GHの在り方と共に、精神面についての教育を入社時は勿論、日頃から確認と指導をしている。		

## グループホームさくらの家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居者間、スタッフはもとより、家族に対しても、「入居者を中心とした大家族」のようなスタッフ・入居者・入居者の家族の関係を理解と協力を日頃から共通の意識となるように努めている。		縁を大事にし、家族同士の交流も機会を作ったり、橋渡しをしたりして、更なる関係の向上と維持もスタッフの務めだと考えている。
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	例えば、過去(入居者の若い頃)の家庭の事情を乗り越え、実際に関係を改善でき、来苑の回数と、対話の回数が増えた利用者家族が居られる。		今後も、全ての利用者の家族に対し、親の認知症の進行に伴う家族の苦悩や、心理面も助言し自然に家族自身が理解、納得して受け入れていけるように支援していくつもりでいる。
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族はもとより、友人知人等との交流を大切に支援に努めている		入居以前の友人知人の方々に対し、認知症に対する偏見の無い、自然な受け止め方や理解が出来るように、スタッフがサポートし、関係の維持に努める。
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者各人に対しても、縁により一緒に生活する事になった事などの素晴らしさや他の人の良い所の説明や声掛けと、利用者同士の良い接点等を多く持つようにケアの中で日々心掛けている。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	一度の出会いの縁も大事にするのが、当事業所の理念の基で、その為にも必要と感じ要望等もあり、在宅部門を増設した。		知人なら、困ってるときに有償無償に関わらずサポートするのが当たり前。
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	社会性も維持しつつ、各個人の希望に添った生活を常に意識し、日々のケアにつなげ、共に人生の一部となるように努めている		人生の大事な終盤の部分の大きさを忘れず、ケアに取り組んでいる。

## グループホームさくらの家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	過去の全ての生活歴が、現在のその人を作り上げていると考えており、過去を出来る限り知らなければ、良いケアは出来ないとおもっている。		
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者各個人の日々の状況と変化、その把握のスタッフ間でのズレが無いようにスタッフ各人の客観的観察と指導を行っている。		スタッフの質の向上と連携により、誤差の少ないケアと認識を更に高めていく努力をしていく。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の意向に出来る限り近づくためのいろんな視点と、自分も関わったプランであるという自信や遣り甲斐の意味を含め、全体の意見を出来る限り反映できるような環境作りをした。		その他の部分も含め、3つの委員会を作り、より良いケアと遣り甲斐のある職場とするための環境作りをしている。
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	人は日々変化するものという事を踏まえた上で観察し、過度になりすぎないように気をつけながら、必要に応じてプランの変更更新等の対応をしている。		各スタッフの意見等も参考にし、タイミングを計って行っている
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	スタッフの個人能力の向上の意味も兼ね、スタッフ自身達で検討し記録の書式を含めた記録全体の見直し等も行っている。		記録委員会という記録について考える機会を作り、より良い記録を通じ、よいケアを見出すために現在も進行継続中。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人と家族の貴重な接点や機会を損なわないように心掛けながら、必要に応じ、極力柔軟に対応している。		今後、利用者の希望の地への各家族単位での旅行等の利用者の付き添いなど計画実行できたら良いと思っている。

## グループホームさくらの家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	高齢化により減少していく人間関係を補填するためにも、いろんなボランティア等の受け入れを行っている。 踊り・庭の手入れ・館内の掃除・外出等必要に応じ調整依頼。		利用者の身体や気持ち等の状況に合わせてながら頻度をもっと増やしていきたい。
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	外出時のケアタクシー等の利用。 家族の冠婚葬祭や、本人希望の気分転換を兼ねたいいつもと違う買い物等		その他の事業所(介護保険)の利用方法は今のところ難しいかとおもいます。
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	GHの状況説明や法改正についての話等		今後は、もっと密着度を上げていきたいと思っています。
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	各個人の入居前のかかりつけを基本的に主治医とし、他県等の方には、いくつか現在往診してもらっている病院と地域周辺の病院を希望があれば紹介している。 身体状況や医療に関する事は、細部からドクターに確認した上で、動くようにしている。 母体が病院でないぶん、こまめに連絡し、協力体制を維持している		医療連携という制度前より、自然に出来ていた関係なので、今後も大事にしていきたいと思っている。
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	開設者が開設前から知人の関係で知り会えた認知症に詳しいドクターがいる。極力そのドクターの主催の研修会に参加し、医療治療の最新情報を学んだり、いつでも相談をできるような関係維持に努めている。 現在も良い関係を継続中		今後はこの縁を更に新しい形に具現化していきたい。
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	GHのスタッフに看護資格を持つ者も居るが、地域の医療機関との連携と専門分野での適正化のために協力医の指示をこまめに受けるようにしている。		今後も気軽に細かな事でも相談する事の出来ているこの関係を維持していきたい。

## グループホームさくらの家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	家族も含め、ドクターと連絡を密にとり、無理の無い程度での早期退院を常に目指している。高齢者にとって同居の縁も貴重な縁と思われるので、大切に維持するためにもドクターとの日頃からの連携等の関係維持は大切である。		
49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	当苑では、普段から家族に対し、重度化の可能性や、現在の状況を話、自然に高齢者の変化に対し、出来るだけ変化による衝撃を減らすように心掛けて機会を多く持つように心掛けている。当苑では、高齢者と終末期の区別をせずに、ケアと対応を行っている。ケアの中には家族へのサポートも当然含まれる。		
50	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	過去に1名当苑にて亡くなられた方が居られるが、いわゆる終末期になり家族の希望で、退院され当苑にて最後を迎えられました。その時は家族は勿論、医療機関との連携により家族の方の感謝の言葉を得られるくらいになりました。		しかし、こういうものには、上限は無いと思い、もっと出来たのでは？との問いかけを忘れず今後も、検討していきたいと思っています。
51	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入居も退居も人の生活の場の移転なので大事に考えて、情報交換は勿論、その後のフォローも行っている。 出合い、関わった縁は変わらないと思うので。		
<p><b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	どんなに進行しても人は人、社会の中で生活をとを考えているので、常識と捉えてケアにあたっている。		

## グループホームさくらの家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	出来る限り、本人が自然に現状を受け入れ、楽しみながら日々の生活を送っていただけるように努力している。		但し、利用者さん自身の気持ち本来は皆、希望(思い入れのある所)と違う場所と思われるのが当たり前だとおもうのですが、そのギャップを少しでも埋めていく努力をする事がGHのケアだと思います。
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	会議やミーティング内では勿論、日々の業務の中でスタッフ全体で、優先順位を確認しながら、ケアにあたっている。		スタッフの生活暦(職歴etc)により流れてしまいがちになる事も考え、利用者の生活 その日の状況 業務の順で常々確認している。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	現在、2名のみだが、希望により自身の以前からの行きつけの理容店にて整容されている。		その他の方々も普通でおしゃれな髪型を楽しんでいただく為に、訪問専用の理美容ではなく、町の個人理容店にした。
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	普段の会話や家族からの情報により、極力本人の意向に沿うように努力している。		現在の入居者は、出身地も違うので、中間的味付けや、皿ごとに味付けを変え、個人対応にて、対応している。
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	他の方の迷惑にならないように気を配りながら、個人の嗜好に添うようにしている。		
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個人の排泄ペースと気持ちとADL状況の改善等を総合的に検討し、入居時よりも改善されているケースが多く見られる。但し加齢による状態の低下したケースもある。		

## グループホームさくらの家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の気持ちが入浴に向いているときでない、人は動かないし、不快に思うので、タイミングを見計らい、楽しい入浴が出来るように心掛けている。		
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	それぞれの良い状態を保つために、以前の生活のリズムや、パターンを基に、その都度本人の状況に応じて無理の無い生活が出来るように心掛けている。		朝が早い人や朝ゆっくり寝てる人など様々だが、互いに無理やストレスの無い関係と環境のためにスタッフが、サポートするようにしている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	少しでも充実した日々を送ってもらえるように、日々の会話や生活歴などから、希望の方向性を見出し、家族の方と共に、本人の趣味や時間の過ごし方をサポートしている。		各個人の趣味の他に、他の利用者との関係を更に良くするために、買い物やドライブを出来るだけ多く行い、キッカケ作りに努めている。
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の理解や協力を得て、各個人に応じた対応が出来る。		家族の理解や本人への金銭の基本的対応は出来ているのだが、それによる問題点も、発生することがある。ものもらい妄想による本人のストレスetcについての検討は現在進行中。
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望を言える人も言えない人も格差のないように心掛けながら、声にはできる限り対応している。		表面に見えるものだけでなく、見えないものも観る努力をしている
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	知ってる町の今の様子を観るとか、昔ながらの町並みを見に行くとか、外出などの機会に幅広く体感していただくように心掛けている。		

## グループホームさくらの家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	プライバシー等を考えつつ、今までと出来る限り変わらない日常生活をしていただくように心掛けている。こちらから声を掛けて促したり必要に応じ、対応している。		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	昔住んでた所のご近所さんや、お友達との変わらぬ交流を推進している。家族も含め、寄り易い雰囲気や、コミュニケーションやスペース作りを行っている。スタッフやGHとその利用者の友人との関係も大事に思う。		
(4)安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	GHスタッフとして常識的に捉え、会議やミーティング内では勿論、日々の業務や、委員会等の中でスタッフ全体で、検討や見直しを常に行うように心掛けている。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	以前はかけていなかったが、過去に不法侵入があり、入居者の精神的混乱に大きくつながったので、家族と検討の結果、現在玄関には施錠を行うようになっていました。その分、別の方向での外出の機会を増やすように心掛けています。		過去の外部評価での助言等もあり、外部評価以降に検討委員会を設置し、良案検討中。
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	プライバシーと安全と自由とのどれも崩れないように、考えながらケアを行っている。		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	個人にとっての思い入れと安全面での、両方で考え、個別に検討と対応をしている。個人の状況等により変化する。		思い入れがあるものでも、その方の状況にとって危険性が高い場合は、申し訳なく思いながらも家族との検討の結果、預かっている場合もある。
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	個人の管理能力等の状態は様々で、個別に家族との連絡や協議により対応しているが、本人の現在ある能力を損なわないように出来る限り個人による管理を続けていただけるようにしている。		その日の心身の状態や状況により、こまめな変化に対応できるように心掛けている。

## グループホームさくらの家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	GH内研修や、普段目に付きやすい所に、応急処置法等の紙やマニュアルを作成し置いている。消防署の協力で、救急車の連絡方法の訓練やティーチングをしてもらっている。		
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力の下に練習をしたり、マニュアルと連絡網の完備、それらによる練習とシミュレーションを行っている。管理者や、近郊に住むスタッフやボランティアその他の協力と連携を保つように心掛けている。		1ユニット単独型、病院の隣接がない状況の分、補えるように十分考えて対応するようにしている。
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	家族の来苑時は勿論、状況の細かな変化に対しても考えうる展開のリスクについては、前もって出来る限り説明している。極力本人や家族の決定により方向性と対応をするようにしている。		高齢者は体調万全でもある意味終末期と同じように考えケアをしているし、家族に対しても、普段から説明と自然な理解をもてるように、コミュニケーションを行っている。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	スタッフ間は勿論、医療や家族とも状況の迅速な連携と共有をするように心掛けて連絡している。		体調の変化以外の連絡も当日中にするようにしているが、今後は更にリアルタイムでの共有に努めていきたいと思う。
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	用法用量の把握は勿論しているが、体調等の変化による対応の変化は、確実にドクターとの連携指示の元、対応している。		
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘の起こす影響や予防については、外部やGH内での研修や、検討会により対策を練り自然な予防に向けて対応している。		現在以上に極力薬を使わないで済むようにまだまだ検討していきたい。

## グループホームさくらの家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔清潔と可動域の維持とを兼ねた大事な時間と捉え、個人に合った対応を行っている。		
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	量とバランスの他にも時間や状態に応じた対応を心掛けている		習慣の中には、利用者の若い頃の栄養面体力面でのゆとりのあった時期があるので、無理がないように、今の状況や体力との兼ね合いを考え説明を行いより良い生活にしていきたいと思っている。
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	スタッフや家族の感染に対する知識や理解を維持し、予防に対して取り組んでいる。		来訪者や家族に対し、張り紙や、GH便り等により連絡とお願いを行っています。
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食品に対しても厳重に予防対策に取り組んでいる。		生活の場としての雰囲気を壊さないようにし予防に取り組んでいる。 目立たず厳重が難しい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	歩きやすい、入りやすい雰囲気と実用性のある玄関や、内外共に心休まるような花壇の整備と維持を心掛けている。		
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	設計時より、自分の親の過ごす場所のコンセプトにより、何度も改善した後に建設した。日本の普通の家屋のように心掛け、施設感の少ない(少ない)ように心掛けてます。		あくまで基本はごく普通の風景です。

## グループホームさくらの家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の突き当たりや、玄関横や、居室の間や、庭にベンチを設置し、自分だけの自由な空間も適度に作っています。		
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内の家具等は全て各個人で使っていたものにより構成していただくようにしています。本人の馴染みのある居心地の良い空間となるために。		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気と、消臭と、自然な芳香(アロマetc)に気をつけて、管理者がチェックを心掛けている。		夏季冬季etcのエアコン使用時には室内温度のチェックと気温差に気をつけた設定を心掛けている。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設感のない手摺などの設備と、不要なものによる危険の回避と、清掃による安全に心掛けている。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	日頃の会話を皆で共有し、プランに添って自立の支援をしている。無理も余計も無く、自然に過ごせるように心がけている。		スタッフはもとより、利用者間の互いの理解と尊重に繋がるようにスタッフが間に入り、良い関係を維持できるようにしている。
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭に畑や花壇があり、自由に触れるようにしている。現在利用者とスタッフ共同で、とうもろこしや、サニーレタス等を作り、料理にも使用中。		

## グループホームさくらの家

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

## グループホームさくらの家

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
100	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

### 【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

どこよりも、自然に家庭的で、のんびり普通にスタッフと利用者が混在出来ている空間作りに心がけています。スタッフと利用者とその家族が皆家族のように行き来して、気を遣わず過ごせるように、スタッフや家族への働きかけを行っています。昔の田舎の風景に近い環境を維持し、家族も実家に帰る気軽さを作っているつもりです。生まれも家も違う人達が、出会った縁を大切に、少しでも多くの満足感のある人生だったと思ってもらえるようにケアをしていっています。どんなに症状が進行しても、変わらず人として互いを尊重し合い大家族のように仲のいい関係を第一に考え、ケアをしています。最後まで社会の中で人として存在していける空間に心掛けています。人の奥底（真意）までは中々見切ることはできませんが、それもある部分事実と受け止めた上で、出来る限りの努力と協力支援を目指しています。まだまだ足りない部分もありますが、日々の精進に努めていくつもりです。